

新しい年度がスタートしました。それぞれ新しい学年に進級おめでとうございます。3年生は、最高学年として本校をリードしてほしいと思いますし、2年生は中堅学年として3年生を支援しながら、自分たちが最高学年になったときのために準備を進めてください。

今日のお話の中心は、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」についてです。この事業は、文部科学省の指定を受け3カ年の取り組みをしています。3年生が、1年生だったときからの事業です。この事業の最終目標は、この地域での農業の担い手育成です。この目標に向かい、1年生では、地域農業や企業の視察に出掛けたり、キャリアガイダンスの時間に、実際に農業をしている方にお話を聞いたりしました。この視察や講話から理解を深め、農業を始め自然や環境、有効利用などについて課題を見つけたと思います。その課題を高校生の視点から、どのような解決策があるかをグループで意見を出し合い、実験や試作そして改良を加えていると思います。3月上旬、当時、動物科学科2年生で「捨てるカキの皮の利用について」研究しているグループが校長室に来てくれました。平田にある柿選果場の視察の際、たくさん廃棄されるカキの皮についてお話を聞き、このグループで考えたのが、アイスクリームに利用することでした。「皮を細かく切り、アイスクリームに混ぜてその風味を活かす工夫をしたので、試食してください」というものでした。早速、一口頂きその感想をアンケート用紙に、ここまでの製造過程の様子を聞きながら記入しました。また、3月31日の山陰中央新報の「週刊さんいん学聞」に「地域の宝 イズモコバイモ守りたい」というタイトルで表紙に紹介されました。この植物は、環境省が絶滅危惧種に指定しています。出雲市佐田町に自生地がありますが、地区の人とともにバイオテクノロジーの技術を使いながら、保全活動を植物科学科3年生が取り組んでいます。

2つの取り組みを紹介しましたが、本校ではこのように地域と連携した課題研究を以前から取り組んできました。この文科省の事業指定を受け、さらに研究を充実させ出雲地域にイノベーション（モノや仕組み、サービス、組織ビジネスモデルなどに新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会にインパクトのある革新や刷新、変革）を起こすことができれば素晴らしいなと考えています。今年度は、事業の3年目、集大成となりますので例えば先ほどの2つの研究が、「新たな価値を生み出す」動きに繋がることを環境科学科でももちろん食品科学科でも期待しています。

そして、最終目標である担い手の育成では、これも3月29日の山陰中央新報に畜産分野の後継者紹介がされており、本校動物科学科卒業の「曾田春奈さん」が写真とともに掲載されました。ご存じの先生方も多いと思います。現在、飯南町の来島牧場で働いておられます。「いつかは独立し、酪農家や町民と触れ合いを大切に育成牧場を持ちたい」とのお話も載っていました。

このように本校は、この地域に置かれ農業の担い手としての期待があります。そして、環境科学科の皆さんには、建設や土木、測量、造園、森林技術者としての期待があります。こうした、地域の願いに応えるべき点をあらためてお話ししました。この期待に応えるためには、マナトレを始めとした教材を使いながら、基礎学力を高め学年で共通した資格取得を目指す、その基盤の元に専門学習を深めていきます。本校独自のこのシステムの良さを最大限活かしながら、専門教育の深化を図っています。さらに、課外活動の分野でも関連する農業クラブや家庭クラブ、生徒会や部活動など皆さんの活躍の場をたくさん準備していますので、積極的に活動を展開していきましょう

最後に新型コロナウイルス感染症については、まだまだ見通せない状況だと思っています。注意を払いながら、できることを一つ一つ丁寧に行っていこうと思います。皆さんの積極的な働きかけと柔軟な発想を期待して、1学期始業式の訓話とします。